

## 『闇闇に光あれ！』ヨハネ1章1～14節 2016.12.11(聖日礼拝説教より)

『「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださった…。』Ⅱコリント 4:6

クリスマスと言えばイルミネーション…まさに闇に輝く光！神が人となって世に来られた輝かしい出来事が、誰の目にもわかるように起きたのだが…

❶**私たちは闇の中に生きている！**「光はやみの中に輝き、やみはこれを理解しなかった(5節)」とある。世の人はこの神を知らなくても困らない！必要も感じないので信じないが、普通に当たり前前に生きていると思っている。しかし実際、この世で、全ての人々が尊ばれ、大切にされているか？誰もが自分らしく主体的に生きているか？障害者の虐待は後を絶たず、夫婦が愛し合えず、平和主義日本に世界有数の軍備があり、誰もが平和を願いつつ核兵器はなくなるらない！愛し、赦し、思いやり合う世界の「当たり前」が、当たり前でなくなる時、私たちは闇に向かう。ある高校生が自ら命を絶った「別に死ぬ理由もないけど、生きる理由も見つからない…」と。クリスチャンでさえ、「苦しくて必死に祈ったのに、神様あなたは何もしてくれない…」と救いを見失う。信仰者も油断すれば、深刻な闇が再び襲う(⇒マルコ 14:38)。クリスマスは、神の愛とその贈物が拒絶された日。

❷**光あれ！**神の御子は、私たちのその闇を消すために来られた。どうやって消された？私たちは、全能の神が圧倒的に勝利する姿を期待するも、人と同じ肉をまとったイエスは、弱く・乏しく・貧しかった。朝早く祈って御心を確認し、その都度御父を仰ぎ、その都度宣教の言葉も奇跡の力もいただき、グッセマネにあっては「深く恐れ、もだえ、悲しみのあまり死ぬほどだ、祈ってほしい、この十字架は耐えられない…」と弱々しかった。しかしその弱さ故に神を頼みとし、その乏しさ故に常に神を仰いで力をいただいた。常に神に信頼する故に悪に負けることなく、その都度力に溢れ、その都度神の助けと導きを確信し、圧倒的に輝く勝利の生涯を全うされた。その姿こそ、闇が支配する世で輝いて生きる私たちの人生のモデル！自分の弱さや乏しさを素直に認めて神に近づく時、人は、その神の愛の光を反射・反映して輝く者とされる！

❸**光の子らしく歩む！**イエス様を自分の救い主として受け入れた人は、神の子・光の子として生き、「恵みとまこと」に生きる！重度障害を負わされた先代の牧師夫妻のように、貧しさの中で絶えず御声を聴き、痛みの中で日々祈り、弱さの生活に神の力を日々注がられれば、神の愛が光輝く！★今週、あなたのあらゆる「闇」に光あれ！